

令和7年度 高校入試(単願 , 併願Ⅰ・Ⅱ)を終えて

1月22(水)、23日(木)の両日、本校を会場に多くの受験生を迎え、入学試験を大過なく終了することができました。これをこれからの本校への期待と受け止め、教職員一同、一層身を引き締めて参ります。

本当にありがとうございました。

合格者の皆さん、まことにおめでとうございます。

これからの皆さんの未来には、多くの可能性を秘めた扉が待っています。

どの扉を開くかは、皆さんの決意と努力次第です。

しかし、その扉は待っているだけでは開きません。自ら探し出し、力強く開くことが必要です。

本校では、「着実・勤勉・自主」の校訓を实践し、可能性の扉を見つけ出す力を育みます。そして、多くの卒業生がその扉を開き、希望する進路へと進んでいます。

さあ、皆さんも本校で共に学び、未来への扉を探し出しましょう!

皆さんのご入学を心よりお待ちしております。

城北埼玉中学・高等学校

森泉秀雄

国語 講評

はじめに

1/22(水)の国語Ⅰの入試問題の一部に出題ミスがありました。受験生のみなさんにご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。私たちはこの事を厳粛(げんしゆく)に受け止め、今後このようなことが起こらないよう入試問題作成等に関わる作業のチェック体制を強化し、再発防止に努めます。

①出題ミスの内容(ミスをした所をゴシック体にしました)

大問1

問1 ①稗田阿礼が「しぬ」と言った言葉に太安万侶は「死」という漢字をあてましたが、これも非常に変なのですとありますが、筆者が非常に変だと考える理由を次のようにまとめたとき、空欄Ⅰ・Ⅱにあてはまる三字の言葉として最も適切なものを、本文中の見出し「お盆に**表れる**日本人の死生観」より前から探し、それぞれ書き抜きなさい。(各4点)

誤 現れる → 正 表れる

②出題ミスに対する措置

出題ミスがわかったのが採点前であったため、すべての受験生の方に不利益(ふりえき)が生じることがないように採点作業を行いました。なお、この措置(そち)により合否判定に一切影響がないことを確認しています。

国語Ⅰ入試(1/22)

1 「生き方の研究」

人生について、誰しものが悩み、そして迷うものです。そうしたときの道標(みちしるべ)となるのは、先人たちの生きた足跡・遺した言葉。筆者は、古今東西から選び抜いた39人の生き方や言葉を紹介し、生きることの本質的な意味を掘り下げることがを試みました。

筆者である森本哲郎(もりもと てつろう)氏は、新聞記者を経たのち、評論家に転身し、大学教授なども歴任したジャーナリストであり評論家です。

問2、問4の記述式問題を含めてよくできていました。

2 語句に関する問題

「日本語」は「和語」「漢語」「外来語」「混種語」からできています。

その中でもここ数年で大きな存在となった「外来語」の意味をいくつか出題し、よくできていました。それと比べると故事成語と慣用表現の問題で正答率の高くない設問が複数ありました。

わからなかった問題は調べてみてください。

3 「能に見る日本人の死生観」

筆者である安田登（やすだ のぼる）氏はもともと高校教師でしたが、能楽師に転身するという珍しい経歴を持っています。

能には、古典文学に登場する優美な男女の霊や、合戦で死んでいった武将の霊、地獄に堕ちて苦しんでいる人々の霊、というような「あの世」の住人が多く登場します。また、松や桜などの草木の精霊、各地の神々、天女、天狗、鬼など、人間以外の「物」も多く登場します。彼ら、彼女らが「この世」に現れ、軽々と死と生との間を行き来する。見方を変えれば、生と死の間には境界線などないのかもしれませんが。そのような能の世界の死生観について書かれた、難易度の高い文章からの出題にもかかわらず、みなさんとてもよくできていました。

国語Ⅱ入試（1／23）

1 「さがしもの」

「あんたがその本を見つけてくれなけりゃ、死ぬに死ねないよ。」病床のおばあちゃんに頼まれた1冊を求めて奔走する少女を描いた短編です。

作者である角田光代（かくた みつよ）氏の小説やエッセーはとても読みやすく、そして読んだ後に温かな気持ちになる素敵な作品ばかりです。

「この続きを読みたいなあ」と思った人もいます。そう思ったならば、すぐに手に取ることを勧めます。中学校の図書室や近所の図書館にもあると思います。本を読むことの豊かさとはそういうものだと思います。

全体的によくできていました。

2 言葉や資料の読み取りに関する出題

「埼玉県公立高等学校入学者選抜」の出題傾向・ボリュームを意識して設問を作成しましたが、ここに時間をかけすぎってしまったという人がいたかもしれません。

大問2自体のできは悪くありませんでしたが、大問3以下の問題に関して、後ろの方の設問になるにつれ、誤答や空欄が増えていった人が何人かいました（課題作文はよくできていました）。

わからない問題や時間がかかりそうな問題は後回しにしてもよいと思います。

3 「おカネとコトバと人間社会」

筆者である、経済学者：岩井 克人（いわい かつひと）氏は、国内外多くの大学の教授を歴任し、文明批評や現代思想など幅広い分野で活躍する評論家でもあります。「お金」と「コトバ」。全く関係のない言葉のように思われますが、その二つに共通する本質的なものを明らかにすることで、人間社会とはどのようなものかを説明しています。

問4、問5の記述式問題について、空欄だったり、設問条件を満たしていなかったりした解答が見られました。空欄2でも触れましたが、時間が足りなくなった人がいたようです。

4 「徒然草」

兼好法師の「徒然草」の中でも有名な段を用いて「埼玉県公立高等学校入学者選抜」の傾向に近い問題を作成しました。できている人もたくさんいましたが、問1について少しだけ解説します。

大井の土民に（命じられて）水車をつくらせられけり。 → 数日を営み出だして
→ （全く）めぐらせりければ、 （数日かかって造営して）

宇治の里人を召して、（水車を）こしらへさせられければ → やすらかに結びて参らせたりけるが
→ 思ふやうにめぐりて、 （楽々と組み立て申し上げた）

傍線部も解答となっている箇所も、現代語訳することは簡単ではありませんが、文章の構造上「対照」となっていることが分かると思います。「埼玉県公立学校入学者選抜」で、高校生が習うような難しい古文単語や文法などが問われることはほとんどありません。

5 課題作文

試験全体としてかなりのボリュームであったにも関わらず、ほぼすべての受験生のみなさんが、制限時間内にしっかりと最後まで書きあげていたことに、採点者一同感動しました。

設問文に書いてある通り、資料を正しく読み取った上で、「条件」（資料から読み取った内容となっているか・二段落越構成・自分の体験をふまえた考えを述べる）をクリアしているかどうかをそのまま採点基準としました。

「埼玉県公立学校入学者選抜」の採点も同様だと思います。

おわりに

4月。城北埼玉高等学校正門の桜は今年も満開となるはずです。

その満開の桜の下、皆さんと笑顔でお会いすることを私たちは心から楽しみにしています。

ここまでご息を支えてきてくださった中学校の先生方、塾の先生方、そして保護者のみなさま方に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

数学講評

数学Ⅰ入試（1／22）

- (2)を除いて大変よく出来ていました。(2)はルートの中身が3でくくれるので、 $42-n=3\times(\text{平方数})$ の形になればよい事に気が付けば容易に解けます。
- (1)点Dを通り、BCに垂直な直線とADの垂直二等分線が求める円の中心となります。部分点を含めた得点率は4%程度でした。
(2) $\triangle AEC$ と $\triangle ABD$ の2組の角がそれぞれ等しいことより、相似であることが証明できます。基本的な問題だったので出来は良かったです。
- ピタゴラス数に関する会話文を出題しました。(1)は具体的なピタゴラス数を求める問題で得点率は90%とよく出来ていました。最後の設問はcとbの和と差が分かるので、c、bの値をそれぞれ求めることが出来ます。ただし、文字が含まれる計算だったのか(3)の得点率は35%でした。
- (1)は得点率が90%でしたが、(2)と(3)については得点率が50%以下でした。(3)は長方形PQRSが正方形となるので、 $PQ=PS$ であることからtの値を求めることができます。
- 立体図形に関する問題を出題しました。(1)は3点P、I、Gが一直線上にあるとき、PI+IGの長さが最も短くなります。このことからIの位置が決まります。(2)は三角形EPQが二等辺三角形であることに注目します。立体図形に関する問題はどれも出来が悪く、得点率は30%程度でした。

数学Ⅱ入試（1／23）

- 小問10題から成る大問で、得点率60%程度と概ね良くできていました。しかし、(4)の長方形を折り返す問題は、相似な三角形に着目するところが難しかったようで、正答率は25%ほどでした。
- (1)作図の得点率は65%程度と良くできていました。
(2)①2つの三角形が相似であることの証明、②相似比と面積比の関係を利用して三角形の面積を求める問題は、ともに75%以上の得点率でとても良くできていました。③1つの角を共有する2つの三角形の面積比を1:2にする問題の得点率は20%程度とさほど高くはありませんでした。
- 3辺の長さがa、b、cの三角形とその三角形の外接円の半径の長さRを用いて、三角形の面積を求める会話文を出題しました。途中までは概ね良くできていましたが、最後の $\frac{abc}{4R}$ の得点率は15%程度とこれも高くありませんでした。

4 (1) A の y 軸に関する対称点を取り、その点と B を結んだ直線と y 軸との交点を P としますが、これは得点率 90% を超える出来具合でした。(3) では $\angle APB$ が直角であり、体積を求める立体が円錐になるに気付くことがポイントです。(2) と (3) の得点率はそれぞれ 50% を下回っており、解答を求めるのに苦心した様子がうかがえます。

5 立方体の中にできる三角形や三角錐に関する問題でしたが、全体の正答率は 30% 程度でした。

(1) 空間の中にある $\triangle BEH$ が直角三角形であることが捉えにくかったようです。

(2) 一般に直角三角形の直角から斜辺に垂線を引いたときに、その直角三角形を含めて 3 つの相似な直角三角形ができます。本問では $\triangle BEH \sim \triangle BIE \sim \triangle EIH$ であり、対応する辺の比に着目して $BI:IH$ を求めます。

(3) 求める立体は三角錐です。この三角錐の体積は、点 B を頂点、 $\triangle DHE$ を底面とする三角錐の体積の $2/3$ ($=BI/BH$) 倍であることに着目しますが、得点率は 15% 程度でした。

最後に

大問 I は基本的な問題を多く出題しました。間違えた問題については要復習です。特に相似な三角形を利用した問題に気を付けて、公立高校の受験日までにはしっかり復習をしましょう。本校の受験を通して今後の学習面での課題が見えたかと思います。今後はそれらの課題を克服するよう勉強に励んでください。受験生の皆様の健闘を祈っております。ご縁があり本校に入学する皆様については 4 月に再会できることを楽しみにしています。

英語講評

英語 I 入試 (1 / 2 2)

大問 1

相撲観戦に行った時に、英語話者の青年と出会うという物語文でした。問 1 は空欄に適切な動詞を適切な形で入れるという選択問題でした。(1C) については、「僕は 10 歳の時に相撲の試合に行った」という日本語を予想し、have gone を選んでしまった受験生が多くいました。have gone は「行ってしまった、行ってしまって今はここにはいない」という意味の現在完了です。過去を表す when I was 10 とは一緒に使えません。正解は was taken で、「僕は 10 歳の時に相撲の試合に連れて行かれた」となります。文法の知識と共に、柔軟な発想も求められます。問 2 の内容と合っているものを選ぶ問題はよくできていました。

大問 2

ブラジルのサンパウロを舞台に、赤ちゃんの取り違えが起きてしまったという内容の物語文でした。問 1 と問 4 に関して、設問文で「適切な語を抜き出さない」とあります。語とは単語 1 語のことです。2 語以上のかたまりは語句と呼びます。注意しましょう。問 3 下線部(3A)の正答率は高くはありませんでした。faint「卒倒する」という意味を知らなくても、自分の本当の赤ちゃんに出会った時の母親の気持ちと行動を想像すれば、そして(3A)の次の文を根拠にすれば A の選択肢を選べるはずです。今後の高校入試でも未知の単語に必ず出会うと思いますが、場面と文脈を踏まえて処理していくようにしましょう。

大問 3

諸言語とその歴史や関係性に関する説明文でした。問 1 の文意が通るよう並べ替える問題は難しかったようで、代名詞が何を指しているか、抽象的内容からの具体例の流れなどに注目するようにしましょう。問 2 の空所補充問題では、前置詞の後ろにあるから名詞という予測ができると思いますが、さらに対比関係となっている名詞が複数形なので、該当箇所も複数形にするのを忘れていた方が多くいました。問 3 の内容一致問題は正答率が高く、多くの受験生が内容をよく理解できていたと思います。

大問 4

基本的な構文知識を問う語句整序問題でした。1 や 7 の 4 文型を問う問題は正答率が高い一方で 2 の 5 文型を問う問題は正答率が低い傾向でした。leave O C 「O を C の状態のままにする」の C に入るのは形容詞の open でしたが、open を動詞として扱った受験生が多く、Don't open から書き始めている誤答が多く見られました。また、6 は need 人 to do で不定詞の形容詞的用法を問う問題でしたが、need to do (名詞的用法) と誤解している受験生が多かったです。間違えた箇所、自信がなかった箇所はもう一度確認して、正確に覚え直すようにしましょう。構文をしっかりと覚えておくと、読解スピードもあがります。

大問 5

基本的な文法問題でした。問 1 の正答率が低かったですが、so... that と...enough to do の書き換えは高校入試の頻出問題です。大問 5 全体に苦戦した受験生は、もう一度塾などで演習してきた文法頻出問題を見直してみましょう。

大問 6

基本的な熟語の知識を問う問題でした。英検 3 級レベルの熟語表現なので、不安なものはもう一度熟語集などで確認しておきましょう。

英語Ⅱ入試（1 / 2 3）

大問 1

全体的によく出来ていました。リスニングは内容をイメージしながら聞くとよいでしょう。No. 7 に関して、内容が正しく聞き取れていても、正解となる英文を書けていない受験生が多くいました。Question と Answer のやり取りが正しくなっているか、しっかり見直しをしましょう。

大問 2

記号問題についてはよく出来ていました。問 3 は下線部先頭が Not only なので解答は but also を使います。「私が町で会った人々」は people I met（関係代名詞の目的格）ですが、people who met（関係代名詞の主格）や I met people と誤答する受験生が多かったようです。また、問 5 ではウィリアム夫妻がサモアを離れたのは「地震のあった 2009 年の翌年」であったので 2010 年が正解でしたが、2009 年と解答した受験生が多い状態でした。

英文を速く読むだけでなく、正確に読む力も求められます。少し長めの英文を読み込む練習をしていきましょう。

大問 3

環境にやさしい国デンマークについての説明文でした。全体的に苦戦した受験生が多くいました。問 3 は適切な空所に適切な文を当てはめる問題でした。③は比較的正確率が高かったですが、①と②は誤答が目立ちました。空欄の前後の論理の流れをしっかりとつかむ事を意識しましょう。問 4 は下線部 wonderful results の具体的内容を答える問題でした。具体的内容は直後に出てくることが多いですが、今回は長文の最後の方に出てくる As a result of …の表現にも注目できた受験生が多くいました。長文の一部分だけでなく、全体を見る力も大切です。

大問 4

おおむねよく書けていましたが、簡単な単語や文法問題で出題されていれば解けるはずの文法ミスが散見されました。自分の書いた英作文をもう一度チェックし、このようなミスがないかを確認するとよいでしょう。自分が覚えていると思っているはずの単語ももう一度書く練習をしてみることをおすすめします。

理科講評

I (小問問題)

問1：金星の公転軌道は地球の公転軌道より内側のため、夜中に見ることはできません。太陽の方向に対してある程度離れた角度方向に位置したときに、明け方か夕方だけに見ることができます。「よいの明星」は、日没後の西の空に明るく輝いて見えます。

問2：食物は、各消化器官で分泌される消化液によって分解された後、小腸で吸収されます。消化液には消化酵素が含まれており、消化酵素は特定の物質を分解します。各消化液は特定の物質を分解します。消化液と分解する物質の組み合わせは次の表のとおりです。

よって、解答は「ウ」となります。

	唾液	胃液	胆汁	すい液
デンプン	○	×	×	○
脂肪	×	×	×	○
タンパク質	×	×	○	○

問3：試験管の使い方についての問題

実験の際に使用している試験管についての確認問題です。

- ×ア 試験管を持つときは、必ず試験管ばさみを使って持つ。
→安全であれば、手で持つ方が安定しています。
- ×イ 試験管に薬品を入れてふるときは、試験管の3分の2くらいまで薬品を入れて良い。
→攪拌した際などにこぼれる心配があるので、4分の1くらいにするのがよいとされています。
- ×ウ 試験管に薬品を入れてふるときは、薬品がこぼれないように親指で試験管の口をふさぎ、ふると良い。
→薬品が入っているのに、親指で口をふさぐなんて危険です。
- ×エ 試験管の中の様子を見るときは、試験管の真上からのぞくようにする。
→気体が発生していることもあるので、真上からのぞくのは危険です。
- オ 加熱するときは、試験管ばさみを使い、試験管をよくふって中の溶液をかきまぜながら加熱する。

問4：「電力＝電流×電圧」、「電力量＝電力×時間」の関係を使います。

問5：日本の四季の移り変わりは、日本付近の気団が大きく関係しています。Aはシベリア気団、Bはオホーツク海気団、Cは小笠原気団です。とてもよくできていました。

問6：有性生殖では、卵や精子などの生殖細胞が受精することで新しい個体が生じます。一方、分裂や出芽、栄養生殖といった無性生殖では受精が行われません。親と子の遺伝情報は同一のものとなります。よって、解答は「ウ、オ」となります。

問7：エタノールと水の混合物から、エタノールを取り除くには、沸点の違いを使用して蒸留を行います。エタノールの沸点は78℃、水の沸点は100℃なので、混合物を加熱していくと、先にエタノールが沸点をむかえ、沸騰して蒸発します。実験装置も確認しておいてください。

問8：凸レンズによる虚像は実物より大きな像となります。

2 (地学分野)

火成岩と鉱物に関する問題でした。

問1～問4：火成岩はマグマの冷え方の違いによって、火山岩と深成岩の2種類に分けられます。また、火山岩と深成岩は、それぞれ斑状組織、等粒状組織という特徴的な組織構造を持っています。火成岩の特徴とそのでき方についての出題でしたが、受験生の皆さんは、とてもよく理解していました。

問5～問7：火山岩と深成岩は、含まれている鉱物の割合によってそれぞれ3種類に分けられることを学習したと思います。鉱物には長石、石英といった白色、無色のものと、有色のものがあります。白色、無色の鉱物が多く含まれている火成岩は全体的に白っぽく、有色鉱物を多く含む火成岩は黒っぽく見えます。また、鉱物の中で長石は3種類の火成岩すべてに含まれています。これらのことより、解答に近づくことができます。

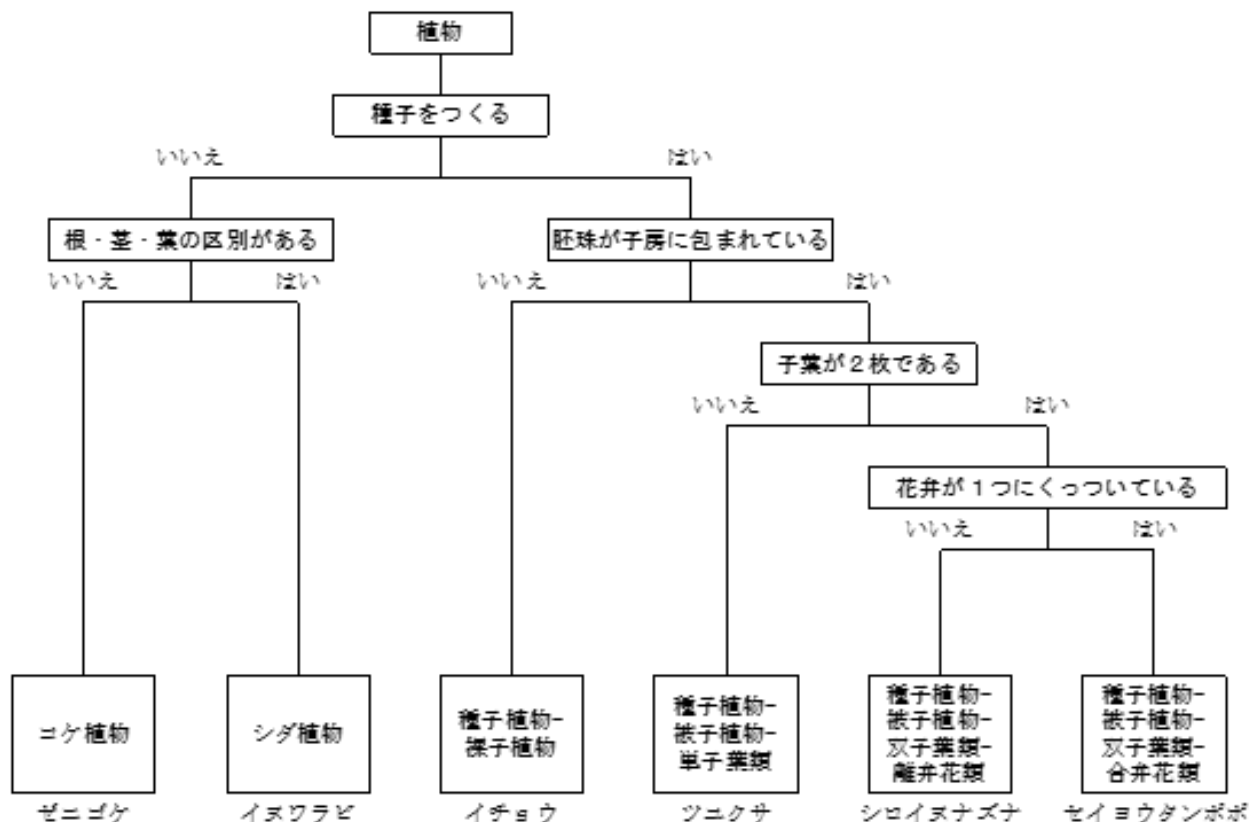
3 (生物分野)

問1：ツユクサは「種子植物－被子植物－単子葉類」です。そのため、葉の葉脈は平行脈となります。

また、イヌワラビは日当たりが悪く湿った場所に生息する「シダ植物」です。そのため、葉の裏に多数の胞子のうをもちます。よって、解答は「カ」となります。

問2：ゼニゴケは「コケ植物」のため、光合成をします。一方、根・茎・葉をもちません。また、花をつけることもありません。水分の吸収は、体の表面全体で行います。よって、解答は「ウ」となります。

問3：植物は次のような共通性に基づいて分類されます。よって、解答は、A：「オ」、B：「ウ」、C：「エ」、D：「ア」、E：「イ」となります。



問4：生態系においては、1種類の生物が複数の食物連鎖に複雑に関係します。このような関係のことを「食物網」といいます。

問5：生態系において捕食者が増加すると、捕食によって被食者が減少します。すると、捕食者にとっての食料が減少するため、捕食者が減少します。こうして捕食者が減少すると、捕食の影響が減るため、被食者が増加します。被食者が増加すると、捕食者にとっての食料が増加するため、再び捕食者が増加します。このように、被食者と捕食者の数の関係は相互に関係し、周期的に変動します。よって、解答は「ア→イ→エ→ウ」となります。

問6：生態系における食物網は複雑であり、多様な生物間に相互関係があります。なので、生態系を構成する生物の種が多様であるほど、何らかの原因によって一部の生物の個体数が増減した際、その影響はより小さくなります。よって、多様な生物種がみられる生態系は、安定しやすいと考えることができます。

4 (化学分野)

実験1は、中和反応の問題でした。

問1：メスシリンダーの使い方、溶液を10cm³測る際、目盛りの読み方についての問題でした。しっかりとできていました。

問2：液性とBTB溶液の色の変化についての問題でした。酸性は黄色、中性は緑色、アルカリ性は青色になるので、A液は、アルカリ性で青色。E液は中性で緑色。F液は、酸性で黄色となります。

問3：D液はアルカリ性の溶液なので、蒸発皿に残った白い結晶は溶解している水酸化ナトリウム

(NaOH)と中和反応によって生じた(NaCl)の2つとなります。

問4：中性になるE液(塩酸を8cm³を加えた)まで、塩酸を加えても水酸化ナトリウム水溶液で中和されてしまうため、水素イオンは増加せず0ですが、それ以降は、塩酸を加えた分、水素イオンは増加します。

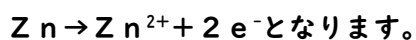
問5：ナトリウムイオン(Na⁺)は、水酸化ナトリウム水溶液が塩酸に中和されて、塩化ナトリウムになりますが、電離してナトリウムイオンのまま存在するので、その数は変化せず一定です。

問6：中性であるE液は、水酸化ナトリウム水溶液10cm³：塩酸8cm³=5：4の関係が成り立っています。すべての溶液を混ぜると、水酸化ナトリウム水溶液60cm³、塩酸30cm³となります。5：4の比になるためには、水酸化ナトリウム水溶液60cm³、塩酸48cm³にならないといけないので、加えるものは塩酸で、体積は18cm³となります。

実験2は、電池のしくみについての問題でした。

問7：この電池で+極(正極)になるのは、銅板です。

問8：亜鉛板上で起こる反応は、亜鉛板が溶けだす反応で、それを化学反応式で表すと、



問9：銅板の表面からは、回路を流れてきた電子(e⁻)を塩酸から電離した水素イオンが(H⁺)が受け取り、水素(H₂)が発生します。

問10：亜鉛板では、問8の $\text{Zn} \rightarrow \text{Zn}^{2+} + 2\text{e}^{-}$ がおり、銅板では $2\text{H}^{+} + 2\text{e}^{-} \rightarrow \text{H}_2$ が同時におこるので、亜鉛イオン(Zn²⁺)の数をA、放出された電子(e⁻)の数をB、発生水素分子(H₂)の数をCとしたときの比は、A：B：C=1：2：1となります。

5 (物理分野)

仕事と仕事率に関する問題でした。

問1～問4：「仕事=力×距離」、「仕事率=仕事÷時間」の関係を利用して解答します。また、「仕事の原理」を利用すれば問3の力を求めることができます。いずれも正解率が高く、よくできていました。

問5、6：図4、図5のグラフから、物体Pを引き上げるときのばねの伸びは12cm、ばねは6Nの力で物体Pを引き上げたことがわかります。モーターQが糸を引き上げる速さは1秒間に4cmであるので、問5のXは3秒ということがわかります。物体Pが引き上げられた時間は18-3=15秒ですから、物体Pの移動距離は4×15=60cm(=0.6m)です。このことから問6の仕事は6×0.6=3.6Jとなります。

問7、8：物体Pを斜面に沿って引き上げるには、6Nの力が必要なので、ばねの伸びは12cmであることに注意しましょう。

受験生の皆さんの解答用紙を見せてもらい、今まで努力し、頑張ってきたことがよくわかりました。採点者もみなさんにしっかり伝えようと心を込めて解説を書きました。是非、振り返りを行い、まだまだ続く入学試験に臨んでください。みなさんの健闘をお祈りしています。

社会講評

(地理分野)

大問1 世界地理

問4は、近年出題傾向の高い資料を読み取る問題です。「産業の空洞化」の原因を解答するということは、内容理解を深めておく必要があります。また、図やイラストから読み取る資料問題は、今後の受験機会の中で多くなると思われるので、言葉で覚えるだけでなく様々なものから連想できる力をつけましょう。社会は暗記科目と思われていますが、物事を根本から理解し、思考することが大切です。

大問2 日本地理

今年度は「日本の自然災害」に関する問題でした。日本で起こった自然災害を羅列してみると、非常に大規模な災害が多いことがわかります。なぜ日本では自然災害が多いのか原因についても理解を深めておきましょう。

問4の正答率が低迷していました。問4は「フェーン現象」が正解の問題です。単語自体を把握できていなかった受験生が多かったようです。一問一答形式での学習を基本としていると思いますが、近年の入試では、思考力を問う問題が出される傾向があります。単語を丸暗記しているだけでは太刀打ちすることができないので、しっかりとその事象の原因や本質を理解し、使える知識として理解を深められる学習をしていきましょう。ストーリーで覚える、勉強した知識を使ってたくさん会話をすることがおすすです。また、学習するときは、文で覚え、書いて覚え、漢字で覚えることが効果的です。

(歴史分野)

大問3

大問3は古代～中世の歴史から出題しました。問題文の資料から正しく時代を判別することが必要となります。

問2では班田収授法の対象に関する問題でした。説明問題では解答に必要な語句を適切に用いることが重要です。

問4は、バテレン追放令の資料を丁寧に読み取ることで解答を導くことができる問題でした。

大問4

大問4は近世～近代の歴史から出題しました。問2は例年通り、画像による並べ替え問題でした。学習の際は教科書等の図版にも必ず目を通しましょう。

問5の有権者の割合については、1925年の普通選挙法の内容を説明している受験生が散見されました。問題文の条件をよく読み、1945年の選挙法改正の内容に言及できると良いでしょう。

(公民分野)

大問 5

この1年間でニュースに取り上げられることが多かった事柄についての問題でした。特に、問1の日本国憲法第二十四条は、選択的夫婦別姓制度の導入について議論がなされている昨今、注目度が高まっている憲法の条文です。

問6は、エネルギー自給率に関する出題でした。最近ガソリンの値上げが相次いでいますが、その影響でインフレ率も高くなっています。化石燃料の高騰により、日本がエネルギー不足になるというのは誤りです。どれだけ燃料が高騰しても、政府は国民の生活を守るために輸入を続けるでしょう。問題なのは、その値上がり分を生産者や消費者が負担をしなければならないという点です。資料とニュース、そして自身の経験を結び付けて物事を考えるように心がけましょう。

(融合分野)

大問 6

昨年開催されたパリ五輪を受け、地理・歴史・公民からそれぞれ出題しました。1984年のロサンゼルス五輪を契機に、五輪は商業化へ傾きました。高額な放映権料やスポンサー料をとりながら、開催国への還元が少ない近年の五輪ですが、冬季五輪も含めて開催を希望する都市が減少しています。また、オリンピアの祭典時代は、その開催期間は戦争が中断するなど、文字通り平和の祭典でしたが、現在はどうか。普段のできごとから、様々なことに思いを馳せられるような高校生になってほしいと願っています。

受験生の皆さん、本校入試お疲れ様でした。これから志望校の受験が続くことと思います。心身共にしっかりと休養をとり、集中力を高めて次の試験に臨んでください。志望に沿った進路実現ができるよう、諸君を応援しています。頑張ってください。